

平成22年6月17日

小樽市医師会

会長 津田 哲哉

提 言

- 1) 小樽市、および小樽市医師会には将来にわたって小樽市民の健康を守り続ける責任があります。安定した医療体制を確立するため小樽市と小樽市医師会は、小樽市内の今後の医療のあり方について全体的な視野から実質的な協議・検討を継続的に行うべきです。そのような協議の場は、昨年9月に最終答申を出した「ネットワーク化協議会」のような新病院建設を前提とした小樽市のプランの説明や承認の場であってはなりません。今後、より建設的な意見交換の場を企画して行きたいと考えます。
- 2) これまで市立小樽病院は、小樽市内の総合的で最大規模の病院として、医療センターは、小樽市内の脳外科疾患および循環器疾患および精神疾患を担う病院として、小樽市民の健康を守るため重要な役割を果たしてきました。小樽市医師会はこのような実績を高く評価しています。
- 3) 自治体病院によって市民に医療を提供するという形が最近問題視されています。ここ10年程の間に新築された市立病院で当初の計画通りの運営が行われているところは全国的にほとんど存在しないからです。特に北海道内についていえば、新築が病院経営の再建に貢献したところは皆無です。しかも医師不足で当初意図した診療体制を維持することも大変困難です。医療体制を保証するプラスの面だけでなく、今後生ずる可能性のある財政的な負担についても小樽市は市民に十分な説明をすべきでした。今後の市の対応に期待したいと思えます。
- 4) 現在小樽市の進めている新市立病院新築計画はあまりにも拙速で危うい

ものであると考えます。小樽市医師会だけでなく市民の声を取り上げる場が平成13年度に答申の出された「市民懇話会」以来、一度でもあったでしょうか。小樽市医師会は今一度、市民の知恵を集めてより良い市立病院のあり方をまさに今、再検討するべきであると考えます。

提言の背景

小樽市医師会はこれまで小樽市の要請には全面的に応えてきました。行政と医師会は協力するのが当然です。これまで小樽市と一体となって小樽市民の健康維持・増進のため努めてきたと自負しています。一例を挙げると小樽市医師会は小樽市の委託を受けて夜間急病センターの管理運営をしてきました。一次救急医療体制を保証し急病などの場合市民が365日いつでも受診できる環境を整え、維持してまいりました。医師、看護師など医療を担う人員の不足が著しい現在、急病センターの運営は様々な面で困難を抱えていますが、なんとか努力して続けてまいりました。小樽市医師会は今後も小樽市と協力して小樽市民の医療を守るため努力を続けていく決意です。

しかし新市立病院の建設について、小樽市は小樽市医師会とは十分な協議のないまま統合・新築を前提として一方的に計画を進めてきたのが実情です。医師会ばかりでなく、市民が意見を述べる場もなく現在の計画には市民の声が十分に反映されていないのではないかと感じています。

平成13年度に答申の出された「市民懇話会」は十分な根拠がなければむしろ市立病院は考え直すべきだと結論していました。しかし小樽市はあまり検討もないまま市立病院の再建・統合のためのよりどころとして「市民懇話会」の結論を利用しました。その後は市立病院の建設候補地として量徳小学校を考えていながら市民との会話を拒否し、そのため一旦は市民からその利用を拒否される等、新病院は市民とともに考える場を提供してきませんでした。さらに小樽市は市民との対話のないまま独自に計画を進めました。平成19年度には起債の目処もないのに基本設計を発注、途中で解約することとなりました。

小樽市医師会は新市立病院のあり方について幅広い提言を行ってきましたがその意見が取り上げられることもほとんどありませんでした。取り上げていただいた点をあげますと、市立病院が一次救急まですべて担うことは現実的でないと言及しましたが、この点については小樽市にも了解いただいたと思います。

また、現在着実な運用が積み重ねられているオープン病棟が継続できることは高く評価します。

医療を巡る環境の変化は著しく、2000年以降に建設された全国の市立病院の多くが困難な状況にあります。医療を市立病院という形で提供すべきかどうか、従来と同じ発想では成り立たない時代になっているのではないのでしょうか。この点について十分な検討がなされた形跡はありません。

さて、新市立病院について平成21年9月に答申がまとめられた「再編・ネットワーク化協議会」に小樽市医師会および公的病院も参加し、討議に加わりましたが、その中では新市立病院の統合新築方針については十分な検討は行われませんでした。なぜならネットワーク化協議会の開催された当時は新市立病院の建設場所も未定で、しかも小樽市の市立病院改革プランは未達成であり、病院新築のための前提条件が充分には整っておりませんでした。

今回5月25日の小樽市議会の病院特別委員会に対し提案された「新市立病院計画概要(案)」ですが、当会に対し具体的な説明の場が設けられたのは6月14日が初めてです。すでに市議会での審議は相当進んでおり、当日新市立病院建設の基本設計予算案は予算委員会を通過いたしました。我々ばかりでなく市民の疑問に答えぬまま新市立病院の建設に向けた実質的な準備が進んでおり、医師会としては大いに問題点ありと言わざるを得ません。

小樽市医師会は市立病院の新築・再建については、市民の納得の行く計画に練り上げ、市民に期待される病院として再建できるようさらに検討をつづけるべきであると提案致します。